



洗車機による洗車は
30秒以内で

南九州コカ・コーラボトリング(株)熊本中央営業所(熊本市流通団地、谷口憲正所長)は、コカ・コーラやアクエリアス、ファンタ、ジョージア、爽健美茶などのペットボトルや缶を熊本都市圏の大型スーパーに配送。また阿蘇、天草、八代、山鹿などのファストフード店へサーバー用清涼飲料水を納品しています。

同営業所の節水対策は、04年に全社的な取り組みとして作られた節水マニュアルに基づいて行われています。「営業車の洗車時の節水を図るほか、顧客のサーバーなどの汚れをふくタオルの洗濯もまとめて行い、1日の水使用量を少なくしました。また、漏水がないかどうかの水道メーターチェックも定期的に実施しています」と同営業所の川口信一さん。特に現在、大型車8台、中型車6台、普通車30台以上を保有する同営業所の洗車時の節水対策は、①水の垂れ流しに注意し、必要な時に蛇口を開け、その後必ず閉める②汚れのひどい部分のみブラッシングする③最後に洗車機により30秒以内で洗車する—というものです。

これらの節水活動が実を結び、06年以降の同営業所の月平均の上水道使用量は、06年=50m³(目標53m³、達成率105.7%)、07年=47m³(同50m³、同106.0%)、08年=45m³(同49m³、同108.9%)、09年=39.6m³(同45.3m³、同114.3%)を達成。「節水目標は年々高くなっていますが、毎年目標をクリア。さらに達成率も年々、アップするなど、節水への取り組みが浸透してきたようです」と川口さん。今年の同営業所「節水担当」の北村洋子さんも「引き続き社内の皆さんに呼び掛けて日々、節水に取り組んでいきます」と話しています。



毎日記入される洗濯の節水チェック表

南九州コカ・コーラボトリング(株) 熊本中央営業所の主な取り組み

- 洗車時は、①水の垂れ流しに注意し、必要な時に蛇口を開け、その後必ず閉める②汚れのひどい部分のみブラッシングする③最後に洗車機で30秒以内で洗車する
- 1日の洗濯機の使用回数は最小限にする
- 月に1回、漏水状況を水道メーターで確認する

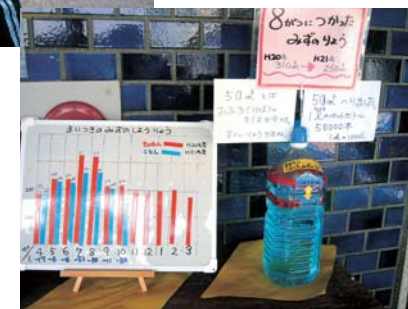


漏水チェックも定期的に行われる

節水マニュアルが営業所内に浸透
洗車、洗濯、漏水チェック：



(左)7-8月のシーズンには2階のプールからホースを引いてたらいにため、残り水を有効利用している
(下)園内に掲示してある、水の使用量が減少していることを示すグラフ



熊本市龍田弓削のたつだ保育園は、平成20年度の半ばから「環境しつけ」を始めました。しつけの取り組みは子ども向け環境教育の手引きである「ESDキッズプログラム」に沿っています。これは環境省が推奨する環境経営システムの認証制度「エコアクション21」の幼児版。活動メニューはいくつかありますが、同園が最初に始めたのは「節水」でした。

まず、紙芝居で水の大切さや水がない暮らしの厳しさを子どもたちに理解してもらい、その上で手洗い、歯磨き、食器洗いとき、水道の水を出しっ放しにせず、蛇口を小まめに締めることを習慣づけました。

7-8月にはプールの残り水をたらいにため、子どもたちの足洗いに使う、そうきん掛けで使う、園庭の草花の水やりを使う、などの再利用を図っています。

また、使用頻度の高い蛇口には節水コマを設置し、トイレタンクにはペットボトルを入れ、食器洗浄機の水使用量をミニマムにするなど、設備面での節水も実行。職員間でも節水意識、省エネ意識を高めています。

その結果、毎日水の使用量を記録するようになり、省エネ効果も目に見えて出てきました。7-8月の水の使用量と水道料金の年次推移を見ると、取り組み以前の平成19年は361m³、9万9445円でしたが、取り組み後の同20年は311m³、8万5795円、同21年は260m³、7万1872円と大幅に低下しています。

こうした子どもたちの節水への取り組みは家庭にも波及し、保護者の意識まで変えているそうです。

たつだ保育園の主な取り組み

※平成22年5月17日現在

- 園児に対する水道の蛇口を締める習慣の徹底
- プールの残り水の再利用(子どもたちの足洗い、そうきん掛け、園庭の草花への水やりなど)
- 使用頻度の高い蛇口への節水コマ設置
- トイレタンクにペットボトルを入れることでトイレ洗浄水の節約
- 食器洗浄機に使用する水のミニマム化(最小限化)



使用頻度の高い水道の蛇口には節水コマを設置し、無駄遣いを防止している



子どもたちは石けんで手を洗うときには蛇口を閉め、出しっ放しにしない

プールの残り水を有効活用
エコ育む「環境しつけ」